

皆添英二

みなぞえ えいじ
広尾町中高一貫教育連絡協議会長
北海道広尾高等学校長

広尾だからできる学び 中高一貫教育の大胆な構想

北海道広尾高等学校長に赴任し、本年度二年目の皆添英二校長。広尾町中高一貫教育連絡協議会長として、これからの中高一貫教育の方向性や展望等について、お話を伺いました。

□早速ですが、昨年度、中高一貫教育の今後の展望や広尾だからこそできる「学び」について伺いましたが、その実施状況については、どうですか？

何一つ一緒に就いていないのですが、昨年度は、事務も含めた教職員数が、23 名に増えたものの、校長、教頭、事務長を含め、12 名が入れ替わりました。この内、教諭については、新採用 2 名、再任用 2 名、期限付き 3 名が転入し、日々の安定した学校運営をすること自体が課題で、本校の魅力化どころではありませんでした。しかし、今年度は、本校の規模に合った人事異動となり、昨年度の難局を乗り切ったことにより、先生方もパワーアップしているので、期待して下さい。

□頼もしい発言ですが、何か具体的なプランはありますか？

あります。ありますが、それらをご説明する前に、昨今の教育関係の情勢を整理しておく必要があります。

□それではまず、その背景からお聞かせください。

既に皆さんご承知のとおり、「大学入試センター試験」が現高校 1 年生が 3 年生になる、2020 年度に「大学入学共通テスト」となります。内容は、国語・数学については、現行の択一式問題のみから記述式問題の導入となり、具体的には、国語は、80 ～ 120 字程度の記述式問題を含め、数学は、数式・問題解決の方略などが問われます。英語については、現行の「読む」「聞く」のみから 4 技能評価へ転換となり、具体的には、英語の外部検定試験を活用し、「読む」「聞く」「話す」「書く」の 4 技能を評価します。また、2024 年度から、地歴・公民分野や理科分野等でも記述式を導入する方向で検討中です。さらに、AO 入試や推薦入試においても、新たなルールが設

定され、小論文、プレゼンテーション、教科・科目に係るテスト、共通テスト等のうち、いずれかの活用を必須化することとなります。そして、奇しくも、この 2020 年度は、小学校で新学習指導要領が全面实施される年度でもあります。

これには、討論や発表等を通じ、自ら問題を見つけて解決する力を育成する「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング＝能動的学習）」を全教科で導入することとされています。また、「聞く・話す」を中心に英語に親しむ「外国語活動」を小学 3、4 年生に導入し、現行で、外国語活動を実施している 5、6 年生の英語は、教科書を使用して「読む・書く」も加えた正式教科となります。さらに、小・中・高等学校を通じてプログラミング教育を充実することとされています。こうした大きな時流の中で、「高大接続・大学入試改革」は、もはや高校だけの問題ではなくなりました。高校だけが変わるのではなく、まさに、小中高 12 年間の連携が不可欠です。加えて、新学習指導要領では、これからの時代に求められる教育の実現のため、学校が社会とも連携する、「社会に開かれた教育課程」が掲げられています。

すなわち、学校と地域の共通理解の下、授業や教育課程の改善を通した学校づくりが求められているのです。

□『連携』が世の中の動きのキーワードですね。では次に、具体的なプランをお聞かせください。

一体型（中等教育学校）や併設型（同一の設置者による中高の接続。道内にない型）ではない、連携型の中高一貫校では、6 年間と小学校を合わせた 12 年間のカリキュラムを一体的に行うのは、簡単ではありません。なぜなら、中学卒業後の進学先は様々であり、一般入試で他の中学校からの入学も可能だからです。

しかし、昨年度 1 年間で振り返り、既存のものを活用した小・中・高の連携が模索できることに気づきました。その第 1 は、「オオバナノエンレイソウ」です。広尾中学校で平成 21 年度から実施している北海道大学と連携した『環境教育』の取組です。これは、種を植えてから 10 年をかけて 3 枚の白い花びらの可憐な花を咲かせることに着目しました。方法としては、小学 3 年生で種を植えると、10 年後の高校 3 年生の時に自分が植え、育てた花を見て卒業することができます。その学習方法は現在検討中ですが、小・中・高を通した学びの端緒に相応しいと思います。但し、中学校での取組はそのままだに、小学校からのスタートを加える形です。この他、『ふるさと教育』として、小学校を中心に置く、漁協と連携した「さけの稚魚放流」、『主権者教育』として、高校を中心に置く、町議会と連携した「高校生議会」等も考えられます。まさに、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し教育活動の質の向上を図っていくカリキュラム・マネジメントの視点です。

また、授業や研修会の連携として、小学校の英語授業やその研修会が考えられます。つまり、現在の移行期に、A L T と高校の英語科教諭が T T として入る。英語の指導に係る研修会に高

校の英語科教諭が講師となる等で、全面实施へつなげるお手伝いをする。これは、既に中学高校間で全ての教科において実施し、成果を上げている S C C（中高相互乗り入れ授業）で培ったノウハウが役立ちますし、小学校へも昨年より、理科や家庭科等で実施していますので、実現可能かと思われます。

□最後に、今後の展望についてお聞かせください。

広尾町の人口減少の推移を見ると、高校を魅力化し、広く道内外から生徒募集のできる仕掛けが必要です。もちろん、一問口でも魅力的な学校はありますが、その取組については、内外に発信すべきです。ヒントは、全国にあって北海道にないもの、それは、「防災・減災教育」です。北海道では、最近の研究・調査において、400 年に 1 度の東日本大震災級の地震が発生する、と言われております。過去において、阪神・淡路大震災後に、兵庫県立舞子高等学校に環境防災科が設置されました。防災教育を推進する全国初の学科です。また、東日本大震災後に、宮城県立多賀城高等学校災害科学科が誕生し、防災教育を県内外に広げるパイロットスクールとしての役割を担っています。しかしながら、災害が発生してから取り組んでも遅いのです。道内でも既に、有珠山の噴火や台風等の自然災害による甚大な被害が発生しています。取り組むべきは、まさに今なのです。広尾町では、十勝港の港湾 BCP が策定されており、今年は、4 年に 1 回の総合防災訓練の実施年となっています。その素地はあるのです。手始めに、本校 1 年生が、総合防災訓練に参加し、「総合的な探究の時間」での取組の可能性を模索する。将来的には、学校設定教科『防災』を設置する。このことにより、例えば、防災に対する知識・技能を備えた、医療関係者・自治体職員・海上保安職員・警察官・消防士・教職員・保育士・福祉関係職員・漁師・酪農家等を本校から輩出することが可能です。そして、私が先程から申し上げている小・中・高のそれぞれが中心となった『学び』は、全て『防災・減災教育』に帰結する小中高一貫教育構想なのです。

《聞き手 / 広報啓発部会 石館 亮一（広尾高等学校教諭）》



中高合同部会議と 意見交流会を開催しました。



去る4月27日（金）に広尾高校にて「中高合同部会議」を開催しました。基本理念・テーマ・柱は、「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きる人を育てる ～地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる～」です。その後、後藤教頭（広尾高校）の司会により、広尾高校と広尾中学校の教員がそれぞれの学校の「課題とメリット」について協議し、意見交流会をしました。

5つの分掌部会の実践テーマを紹介します。 ※総学とは総合的な学習の時間のことです。

教育課程・学習指導部会



実践テーマ

「主体的・対話的で深い学び」を推進させる

特別活動・生徒指導部会



実践テーマ

- 1 学校行事を共同開催し、中学生、高校生が連帯感を高め、協力性を学ぶ
- 2 日常の生徒指導の交流と、中高連携による生徒指導の実践

進路指導・総学部会



実践テーマ

- 1 6年間を見通したキャリア教育の実践
- 2 6年間の進路指導を通して、個々の生徒に関する具体的な情報を連携2校で共有するシステムの構築
- 3 異学年間での合同学習を通じた、表現力や問題解決能力の伸長
- 4 地域理解を深め、地域に貢献する生徒の育成

広報啓発部会



実践テーマ

中高一貫だよりの発行を通して、生徒・保護者・地域住民への広尾町中高一貫教育の活動状況等について発信する。

特別支援部会



実践テーマ

- 1 中高の連携・協力した指導方法・指導計画の研究
- 2 関係機関と連携した教職員の専門性の向上に関する取り組み



中高 教科部会 の様子

教科部会では国語科・社会科（地歴・公民科）・数学科・理科・英語科・保健体育科・家庭科・養護の8つの部会があります。各教科部会では、生徒の興味関心を高め、学力と指導の質が向上できるよう、広尾町の生徒の実態に合わせ、具体的に実践的なプランを話し合いました。各教科の今年度の実践テーマを紹介します。



国語科部会



実践テーマ

- 1 生徒が論理的に展開する文章を書けるようになるための作文指導の在り方
- 2 生徒が積極的に日本の伝統的な言語文化に親しむための授業の在り方

数学科部会



実践テーマ

- 基礎・基本的な知識・技能の習得を目指した数学的活動の工夫
- 1 ティームティーチングの充実
 - 2 高校チューター学習の研究・実践

英語科部会



実践テーマ

生徒自身が、自分の学習到達度を理解できるCan-Do-ListとClassroom-English-Listの効果的な運用

理科部会



実践テーマ

- 1 乗り入れ授業や共同実験及び授業参観での生徒の実態の把握を通し、6年間の見直しをもった指導の反映
- 2 基礎・基本の定着の推進とともに、自然科学に対する関心を高めることをねらった実験や観察方法の開発

社会科【地歴・公民科】部会



実践テーマ

- 1 中高の連携活動を活かした効果的な学習指導の工夫
…基礎・基本の定着を目指した中高相互乗り入れ授業の実践
- 2 中高6年間の学びもれない、きめ細やかな連携教育を目指した教育課程の研究
…中高基礎学力テストの分析等による、中高6年間を通して重点的に指導すべき学習領域の検討

保健体育科部会



実践テーマ

- 1 中高生の運動能力の現状を把握し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を高める授業づくり
- 2 異年齢からの支援をうけることで、生徒同士が教えあい、「学び合いの姿勢」を育む

家庭科部会



実践テーマ

- 1 6年間を通して発達段階に応じた系統的な学習内容により、家庭生活における基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る指導の実践
- 2 被服および調理実習におけるTTの実践による生徒個々の能力に応じた個別指導の充実

※TTとはティームティーチング（複数の教員で授業）のことです

養護部会



実践テーマ

- 1 生徒・地域の実態や健康課題の共有と対応策の検討
- 2 生徒・地域の実態を踏まえた保健指導・カウンセリングの充実